

令和3年度 淀川管内水害に強い地域づくり協議会 (大阪府域) 首長会議 議事概要

日 時：令和3年7月13日(火) 15時00分～16時40分

場 所：Web方式(Zoom)による開催

【出席者】

濱田 高槻市長	広瀬 寝屋川市長	森山 摂津市長	山田 島本町長
眞田 淀川右岸水防事務組合事務局長		平田 淀川左岸水防事務組合事務局長	
小池 大阪府 政策企画部 危機管理室長		美馬 大阪府 都市整備部 事業管理室長	
山内 大阪府 都市整備部 河川室長		野村 気象庁 大阪管区気象台長	
染谷 独)水資源機構関西・吉野川支社 淀川本部長		藤原 淀川ダム統合管理事務所長	
波多野 淀川河川事務所長			

(以下代理出席)

門真市 副市長	大阪市 危機管理監	守口市 危機管理監	枚方市 危機管理監
茨木市 危機管理監	大東市 危機管理監	東大阪市 危機管理室長	

■議題

- 1) 淀川管内水害に強い地域づくり協議会について
 - ・ 規約改正及び取組方針の見直し
 - ・ 令和2年度の活動報告
 - ・ 住民の水害に対する意識調査
- 2) 「淀川チャンネルと最近の気象」に関する講演
気象予報士 藤森涼子 氏(日テレNEWS24 気象キャスター)
- 3) 意見交換
 - 議題①：河川管理者からのホットライン
 - 議題②：広域災害における情報共有とタイミング

【開会挨拶】

＜淀川河川事務所長＞

- ・ 本協議会は平成21年度から淀川沿川の各市町と一緒に、自分で守る、みんなで守る、地域で守ることを共通の目標とし、防災意識の向上やソフト対策の取組の充実を図ることを目的に開催している。
- ・ 去る5月には流域治水関連法も公布され、沿川市町での被害を軽減させるための取組がより一層重要になっているが、本協議会の開催を通じてそうした取組のさらなる促

進を図っていきたい。また、当事務所としても積極的に沿川市町への支援に取り組んでいく。

- ・本日の協議会では、気象予報士の藤森様より淀川チャンネルと最近の気象について話題提供いただく。また、出席の皆様とホットラインや広域災害の情報共有について意見交換したいと考えている。
- ・一方、Web 形式の会議は、例えば洪水時に気象庁と一緒に早い段階から気象・防災情報を各市町と共有することで危機意識を持って先を見通した備えにつながることも期待されることから、こうした Web 形式での会議が災害対応時にも活用できるような訓練の意味合いがあると考えている。
- ・本日は限られた時間で、本協議会の取組が水害への備えに資するものとなるように期待する。

【「淀川チャンネルと最近の気象」に関する講演】（意見交換）

＜淀川河川事務所長＞

- ・今地球温暖化が叫ばれていて、それによって起こる気候変動に対して水害対策をどうしていったらいいのかがイメージが湧きにくいですが、今回の講演を通じて、100 年後どうなるのかというところが非常にわかりやすくご説明いただいたことに感謝している。
- ・先ほどの挨拶の中で流域治水関連法が成立したという話をしたが、当然我々河川管理者がしっかり治水事業を頑張るとともに、沿川市町とともにより一層被害を防ぐ対策にしっかり力を入れていかなければならないという気持ちを新たにしたい。

＜摂津市長＞

- ・最近、時間雨量 50 ミリ、100 ミリが毎年のように降っているが、国は 50 年、100 年ではなくて、1000 年単位を見越して豪雨が淀川を襲うことも例外ではないと予想してハザードマップを公表している。そのハザードマップでもしものときの浸水想定水位は 10m、水の滞留時間も 2 週間になるような危険な地形で、災害のモデル地区に指定されたのが摂津市の鳥飼である。今話があった線状降水帯のことについては非常に神経をとがらせている。
- ・今年は梅雨に早く入ったが、梅雨が終わったら台風のことが気になる。今年は台風が多く襲来しそうか。自然を相手にするからコンピュータではわからない面もあると思うが、どのように観測されているか。

＜気象予報士 藤森氏＞

- ・ヨーロッパのモデルやアメリカのモデルを見ると、もしかしたら来週に沖縄付近で渦を巻くような予測も出ている。しかし、台風の予想は非常に難しく、これは一気象予報士ではやってはいけないと気象庁で決められているので大阪管区の気象台長にお話

しいただければと思う。台風がどれぐらい来るのかという予測は現時点では難しいと思う。

<摂津市長>

- ・テレビを見ていると、世界の気象台がコンピュータで1カ月程度のシミュレーションをしている図が映されるが、実際の予報では、我々のところは1週間の予想をして予報がされている。世界の様々なコンピュータの予想も当たらずとも遠からずで、どれぐらい正確なのか。

<気象予報士 藤森氏>

- ・初期値を入れてコンピュータで計算したものだから、その初期値がちょっと変わるだけで計算結果は、先に行けば行くほど大きく変わってしまう。ただ、例えば私たちが台風を解説する際は、アメリカの台風予想なども参考にしながら解説するので、世界のコンピュータの予想は参考情報としてあっていいのかなと思う。

<摂津市長>

- ・これからテレビを見るたびに今日の話をもっと掘り下げて聞かせていただいて、摂津市は非常に危険な地形にあるので、避難所の見直しなどにしっかりと取り組みたいと思う。

<高槻市長>

- ・今年関西は梅雨入りが早く、「天候の不安定さも毎年とちょっと違うな」、「去年はそうでもなかったな」など、いろいろ毎年微妙に雰囲気が違う感じがする。例えば春に入ってから夏に入る前から今年はずっと雨が多そうだとか、今年はずっと空梅雨になりそうだとか、そういう兆しがわかる知恵はあるだろうか。

<気象予報士 藤森氏>

- ・基本的に気象庁から1カ月予報や3カ月予報、それから2月には暖候期予報、夏の予報や9月には冬の予報、寒候期予報が出される。その傾向を毎週見ながら、3カ月予報は月に1回、1カ月予報は毎週更新されていて、1週間後、2週間後、3週間後、4週間後、気温や雨がどうなるのか予想されている。それをずっと継続的に見ていくのが一番いいと思う。
- ・今年の雨の降り方というのは、まず梅雨に入ったときは前線よりも上空の寒気で非常に大気不安定になって各地で雨が降り梅雨入りになった。その後、ずっと寒気の影響で雨の降りやすい状態が続いて、前線は南の沖縄付近にあってあまり影響していなかった。今週、西日本から東日本は梅雨明けしていくと思うが、先週から梅雨前線が北上

して雨が降っている。

- ・今年の雨がどうこうという兆しは難しいが、本州付近に大雨が降りやすい条件を考えると、沖縄の梅雨明けが1つのきっかけになると思う。沖縄が梅雨明けしたときは、梅雨前線が北上し、いよいよ本州が梅雨本番、しかも太平洋高気圧が強まるので、大雨が降りやすいとは言える。沖縄の梅雨明けが一つのきっかけと見ていていいのかなと思う。

【河川管理者からのホットラインに関する意見交換】

<高槻市長>

- ・避難判断水位到達、超過の時点でホットラインが入ることになっているが、淀川の場合、事前にあらかじめどのぐらいの時間でどのぐらいの水位かというのは大体わかると思うので、レベル3の高齢者等避難開始前の段階でホットラインをいただきたい。
- ・高槻市は淀川の流域の接続水域が一番広い市である。避難するとなると何万人ということになるので、なるべく早い段階で警戒情報に関するホットラインをいただければありがたい。
- ・淀川は大きな川なので、高槻市だけで避難を考えるというよりも、周辺の各自治体と連携して避難を考えていかなければならないので、そのための時間的な余裕が必要になってくると思う。早めの時点がいつのどういう状況のときかなど、情報をいただく時期については議論の余地があると思う。具体的には意見が言えないが、そのところを検討していただければありがたい。

<寝屋川市長>

- ・高槻市と川を挟んで対岸であり、抱えている課題はほぼ共通だと思う。ただし、我々としても対策を取っていくまでの時間は、高槻市と同様に大変危惧している。正直なところ、現状で十分な対応ができるのか、なかなか厳しいのではないかと思っている。
- ・直近で大雨等が発生して淀川の堤防が決壊ということになると、恐らく今の対応では対応が難しい。よりリアルな避難のタイミングや、行政の果たさなければならない役割について、専門家の意見をいただきたい。
- ・タイムライン計画は大変重要だと理解しているが、命の危機が差し迫った緊急時に行政の取るべき対応がどういうものであるべきなのかについて心配し、意見をいただけたら助かる。

<摂津市長>

- ・摂津市は一級河川の淀川と大阪府が管理する安威川に挟まれていて、市民の6割ぐらいが水面より低いところに住んでいる。大雨が降ったら、避難所はほとんど機能しない状態になる。

- ・最近の雨は本当に予期できない、気づいたときには遅かったことになりかねない。摂津市では昨年 SOS 避難メソッドで、摂津独自の分散避難を作った。分散避難で一番大事なことは、これは逃げる以外に方法がない。今ある避難所だけではどうしようもない。
- ・例えば大きな逃げ場所は、少し高台になっている吹田市の万博公園の跡地になるが、これは摂津のみならず北摂地域全体にも共通する場所である。そこへ逃げるとなると、中央環状線、近畿高速とか、幹線道路にいかにかうまくアクセスさせるか、即対応できるようにしておかなければならない。
- ・摂津市だけでできる話ではないので、北摂の近隣各市の力をいただける連携や、幹線道路をほとんど管理している大阪府などいろいろな力を借りながら頻繁に想定した訓練をしなければいけない状況にある。いろいろお話を聞いて、ますます緊張感を持っているところである。

<島本町長>

- ・ホットラインのタイミングは、現行でまずはやってみて、今のタイミングで本当にいいのかどうか、トライアンドエラーでやっていくのかなと思っている。
- ・三川合流地点から上流部、特に桂川について京都側の広域的な情報もしっかり欲しいので、そういう広域的な情報も一緒に共有していただければありがたい。

<門真市（副市長）>

- ・門真市は直接淀川には接していないが、昔から低湿地帯のため、洪水が起こればあっという間に浸水してしまうという懸念がある。できるだけ早く情報をいただくホットラインをしていただければ非常に助かる。

【広域災害における情報共有とタイミングに関する意見交換】

<高槻市長>

- ・淀川は本当に大きな川なので、もし被害ということになると、1 市町の問題ではなく、自治体を跨ぐ被害になることが想定される。そうすると 1 つの市だけで避難判断を決めるとというのが果たして妥当なのかという問題がある。
- ・例えば隣の島本町で避難指示が出ているけれども、高槻では高齢者等避難になっているとか、避難情報が合わない場合のときに住民が非常に不安になるとか、混乱のもとになるということもあるので、できれば周辺自治体と合わせていくほうが望ましいのではないかと思う。
- ・水位で避難の判断をするというのは最近の雨の降り方等を考えると我々だけではなく適切な避難判断になるのかどうか、非常に不安な部分がある。水位判断だけでなく、例えば雨の降り方も勘案した上での避難のあり方を考えていきたいと思う。淀川は非常に大きな川で、流域面積も非常に大きいことから非常に高度な専門的な知識が必要

になるので、そういった判断をすることは自治体の予測の能力を超えてしまう。その点は国のほうで主導し、我々に情報提供していただいた上で、市町村のほうでは画一的にルールに従って避難を考えていくというようなルールを作ったほうがいいのではないか。

- ・責任をすべて自治体が放棄するというわけではなく、もちろん自治体の責任で避難判断するとしても、国の専門的な情報をもとに我々は避難判断をしていくといった仕組みづくりと一緒に検討していただければと思う。

<寝屋川市長>

- ・空振りの数に関する心配として、晴れている段階で、将来を予測した上で避難を呼びかけるということになると、もし空振ったとして、財政的な支援であるとか、行政の負担が軽減されるとしても、市民にとって2回目3回目となったときにどういう危機感を持って対応して、「オオカミが来たぞ」(オオカミ少年)にならない避難ができるのか、というのは大変大きな課題だと思っている。
- ・例えば、雨量で避難を呼びかけるという場合には広域で、淀川であれば左右岸合わせたような一定広域の中で専門家が必要な判断をして、市町村の枠を超えた全域に対して避難が呼びかけられるということであれば、仮に空振ったとしても市民に理解してもらいやすい。
- ・自治体それぞれの規模は違うが、オンライン会議ではどの自治体も同レベルの呼びかけを同等に行うことができるので、リアルタイムで避難を呼びかけるタイミングを共有できる。
- ・将来これから降ってくる目に見えない雨での判断になるので、そうした中ではより広域で避難の呼びかけが発せられる必要がある。そこが実は大きな課題だと思う。

<摂津市長>

- ・摂津市では平生は水位や警報等を参考に避難情報を出すのが、避難指示はリーダーの責任で、判断が非常に難しい。空振りという話が出たけれども、空振り一つ間違うとこのごろのコロナの時節柄、非常にきつい跳ね返りもある。自治体からは河川管理者の都道府県と国の強力なリーダーシップを発揮していただきたい。
- ・空振りになろうと、市民が納得してくれることになると思うため、自治体でできる限りの取組をするが、そういった面の連携をさらに図りたいと考えている。

<島本町長>

- ・避難情報を発出するときには首長の判断というものが大きく関わってくるが、今後の降雨量の話などの専門性の部分は、小さな市町ではそういったスタッフがない。大阪府、国のほうで専門性を持った、しっかりとスキルや技術を持った方々にまず判断をして

いただいて、それを広域でやっていただくということは非常に重要なことなのでお願いをしたい。

<門真市（副市長）>

- ・寝屋川市や摂津市と同様に、空振りをしたときは市民の不満が非常に増えると思うので、国、府でリーダーシップを取って、的確に判断いただいて広域避難に向けて頑張っていたきたいと思っている。

<淀川河川事務所長>

- ・今のホットラインのタイミングを考えると、もう少し前の段階から沿川市町の皆さんと危機意識を共有するツールが必要だということを痛切に感じている。
- ・実際の災害時に淀川の流域で大きな雨が予想され、そういった情報が発せられるときには、実はこういうリモート会議の場を開催して早い段階から气象台からの説明をしっかりと聞いて、あるいは我々からも河川の流況を説明し、この先どうなるのかということをご皆さんと想像しながら危機意識を共有するということをしつかりやることが重要と感じている。
- ・昨年、球磨川で大きな被害が出たが、実は災害が起こる前から今回のようなWEB会議で河川事務所と沿川市町が情報共有した。大変な被害は出てしまったが、防げた被害も非常に大きかったということで、そういう場がずっと継続されていると聞いている。ぜひ淀川でもそういったことをルーティンとしていけるようにこの協議会を通じて取り組んでいきたい。
- ・災対基本法ではあくまで判断自体は首長さんが行うということになっているが、広域災害の点については、淀川流域全体で共通の考え方を皆さんと議論しながら、合理的な判断ができるためのいろいろな情報提供や情報共有をしていく、といったことも大変重要と思うので、しつかりそのあたりも研究して、仕組みづくりについて皆さんと相談させていただければと思う。

<気象予報士 藤森氏>

- ・地元で開かれる防災に関するワークショップに、来られる人たちの目的や意識を知るために、先日一般人として参加してみた。いつ避難したらいいのかわからないからいつか教えてください、どこに避難したらいいのかわからないから教えてくださいという方が非常に多かった。
- ・ワークショップで、どの道を通ってどこに避難する、いつ避難する、そのいつというのが自分の家でどういう状態になったときか、というような話し合いが行われた結果、皆さん納得して帰られた。自分が住んでいる地域がこうなったときにこうすればいいんだというのが頭の中で想像できたのだと思う。

- ・出す側の情報も非常に大切だが、ここまで皆様が考えて尽力して出された情報を、受け手側が理解して、それが生きないと防災にはつながらないと思う。淀川流域の人はどれぐらい自分が住んでいるところではリスクがあるのか、どういう情報が出たときが一番危険なのか、その受け手側の認識を変えるような機会をワークショップやイベントや講演以外にももう少し何かできないか。
- ・私が地元でワークショップに参加したときに皆さんが言っていたのは、コミュニティがないということである。マンションは回覧板もない、避難訓練をやっているのかもわからないという方が非常に多かった。先ほど避難訓練がコロナでできなかったという報告があったが、「まちのコミュニティづくり」が今後防災・減災で非常に重要なテーマになると感じた。

【閉会挨拶】

<淀川河川事務所副所長>

- ・藤森先生から貴重な講演の中で、最新の情報、淀川の特性、特質に応じた気象状況などの情報をいただいた。
- ・皆様方から議論の中でさまざまな意見をいただき、早めの情報発信や、ホットラインの共有、連携、そしてまた同レベルの情報共有に心掛けながら、さらに藤森先生からいただいた情報を出す側、発信する側のスキルやわかりやすい情報、受け手のことを考えた情報について今後検討していきたいと思っている。
- ・台風期が近づいてくるが、今年度も大きな被害が発生しないように努めるので、今後ともよろしくをお願いします。

以上